

1. ICT委員会 会議報告

愛知大学情報メディアセンターの事業および運営は、豊橋 ICT 委員会及び名古屋 ICT 委員会を中心に行っている。ICT 企画会議のもと、豊橋 ICT 委員会および名古屋 ICT 委員会を設置し、豊橋および名古屋(車道メディアゾーン含む)情報メディアセンターの事業を推進する。

2009年10月から2010年9月に開催された各 ICT 委員会の議事は次の通りである。

豊橋 ICT 委員会

2009年度

◇第1回 10月29日

1. 情報教育について
2. 2009年度新規ソフトウェア費について

報告事項

1. LMS 運営特別委員会の取り組みについて
2. 2010年度新規予算の申請について

追加報告事項

1. 2010年度情報メディアセンター実習室の使用について

◇第2回 11月23日

1. 2010年度新規予算について

報告事項

1. 情報メディアセンター開館スケジュールについて

追加議題事項

1. 2009年度「情報活用コンテスト」について

追加報告事項

1. 情報教育環境検討特別委員会発足について

◇第3回 2月22日

1. 情報メディアセンター利用規則の改正について
2. 実習室アンケートについて(中間報告)
3. 情報活用コンテストの審査について
4. その他

報告事項

1. 年度更新について
2. LMS 運営特別委員会について
3. その他

追加議題

1. 2009年度 共通ソフトウェア費用について

2010年度

◇第1回 5月20日

報告事項

1. 2010年度豊橋 ICT 委員会の事業計画
(1)2011年度の PC 実習室利用
(2)次期豊橋情報メディアセンター所長
(3)第8期システムの検討
2. 2010年度第1回情報教育環境検討特別委員会
(新名古屋校舎・厚生棟 4F, 講義棟 7F)
3. その他

◇第2回 7月16日

1. 2011年度 PC 実習室利用について
2. 次期豊橋情報メディアセンター所長の選任に関するコーディネータの選出について
3. 第8期システムについて

報告事項

1. 2010年度第2回情報教育環境検討特別委員会報告
2. 2010年度第1回 LMS 特別委員会報告
3. その他

◇第3回 9月9日

1. 次期豊橋情報メディアセンター所長選出について
2. 第8期システムについて
(1) 検討体制
(2) 予算申請までのスケジュール
3. その他

報告事項

1. 2011年PC実習室利用について
2. その他

名古屋 ICT 委員会

2009年度

◇第2回 10月26日

1. 今後の情報環境整備について
2. その他

報告事項

1. 実習室アンケートについて
2. LMS運営特別委員会からの報告
3. その他

◇第3回 11月26日

1. 2010年度予算申請について
2. その他

報告事項

1. 情報教育環境検討特別委員会について
2. 学生へのメールアドレスの配布について
3. その他

◇第4回 1月21日

1. 実習室利用アンケートについて
2. 学生へのメールアドレスの配付について
3. 2010年度開室予定について
4. 情報メディアセンター利用規則の改正について
5. その他

報告事項

1. ユーザIDの不正使用について
2. 貸出ノートPCの破損について

3. 年度更新申請の継続確認方法について
4. その他

2010年度

◇第1回 5月13日

議題

1. 新名古屋校舎のパソコン教室について
2. 新名古屋校舎のメディアゾーンの運用について
3. その他

報告事項

1. Moodleの利用状況について
2. その他

◇第2回 7月27日

1. 情報メディアセンター所長の任期満了について
2. 実習室アンケートについて
3. その他

報告事項

1. 情報教育環境検討特別委員会報告
2. LMS運営特別委員会報告
3. 貸出ノートパソコンの盗難について
4. その他

◇第3回 9月16日

1. 情報メディアセンター所長の選出について
2. その他

報告事項

1. USBメモリの紛失について
2. 豊橋ICT委員会について
3. 秋学期実習室時間割について
4. その他

2. 情報メディアセンター主催行事
(2009年10月～2010年9月)

◆豊橋校舎

開 講 日	講 習 会 名	教室	参加人数
10月9日(金)	パワーポイント講習会	413教室	5人
10月23日(金)	電子メール講習会	423教室	2人
10月26日(月)	パワーポイント講習会	421教室	8人
11月30日(月)	ワード講習会	413教室	8人
12月8日(火)	パワーポイント講習会	413教室	4人
4月16日(金)	無線LAN設定講習会	514教室	10人
5月12日(水)	パワーポイント講習会	523教室	18人
5月24日(月)	パワーポイント講習会	421教室	2人
5月26日(水)	パワーポイント講習会	421教室	18人
6月16日(水)	ワード講習会	523教室	18人
6月28日(月)	ワード(応用)講習会	421教室	6人

◆名古屋校舎

開 講 日	講 習 会 名	教室	参加人数
10月5日(月)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第2実習室	1人
10月12日(月)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第3実習室	1人
10月15日(木)	Word(入門編)講習会	第2実習室	1人
10月30日(金)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第2実習室	1人
11月6日(金)	Word(入門編)講習会	第1実習室	1人
11月9日(月)	Excel(応用編)講習会	第2実習室	1人
11月10日(火)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第2実習室	1人
11月12日(木)	Word(応用編)講習会	第2実習室	1人
11月16日(月)	Word(応用編)講習会	第2実習室	1人
11月18日(水)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第2実習室	2人
11月19日(木)	PowerPoint講習会	第2実習室	1人
11月24日(火)	Excel(入門編)講習会	第2実習室	1人
11月26日(木)	Excel(応用編)講習会	第2実習室	3人
11月27日(金)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第1実習室	3人
12月8日(火)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第3実習室	2人
12月10日(木)	PowerPoint講習会	第2実習室	1人
2月5日(金)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第3実習室	1人
4月12日(月)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第3実習室	1人

4月14日 (水)	PowerPoint講習会	第2実習室	17人
4月16日 (金)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第2実習室	1人
4月20日 (火)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第3実習室	1人
4月23日 (金)	Word (応用編) 講習会	第2実習室	1人
4月28日 (水)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第2実習室	1人
4月30日 (金)	Excel (入門編) 講習会	第2実習室	7人
5月10日 (月)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第3実習室	1人
5月14日 (金)	Word (入門編) 講習会	第2実習室	5人
5月17日 (月)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第3実習室	3人
5月18日 (火)	Word (応用編) 講習会	E201教室	1人
5月21日 (金)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第2実習室	2人
5月21日 (金)	Excel (入門編) 講習会	第1実習室	3人
5月24日 (月)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第3実習室	1人
5月25日 (火)	PowerPoint講習会	E201教室	3人
5月26日 (水)	Excel (入門編) 講習会	第2実習室	4人
6月1日 (火)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第3実習室	1人
6月3日 (木)	PowerPoint講習会	第2実習室	3人
6月7日 (月)	Excel (入門編) 講習会	第3実習室	1人
6月9日 (水)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第1実習室	1人
6月16日 (水)	Excel (応用編) 講習会	第1実習室	3人
6月30日 (水)	Word (入門編) 講習会	第2実習室	1人
7月16日 (金)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第2実習室	1人
9月24日 (金)	PowerPoint講習会	第2実習室	9人
9月27日 (月)	Excel (入門編) 講習会	第3実習室	1人
9月28日 (火)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第2実習室	2人
9月29日 (水)	Excel (応用編) 講習会	第1実習室	2人

◆車道校舎

開 講 日	講 習 会 名	教室	参加人数
11月5日 (木)	e-Learning講座受講ガイド講習会	K802	1人
12月5日 (土)	e-Learning講座受講ガイド講習会	K804	1人
6月11日 (金)	e-Learning講座受講ガイド講習会	K802	2人
6月21日 (月)	e-Learning講座受講ガイド講習会	K802	2人

2009 年度 LMS 運営特別委員会活動報告

1. LMS 運営特別委員会について

本委員会は LMS の運用内規, 運用指針等について提案を行い, LMS の安定的な運用を行うこと並びに, LMS システムの利用促進並びに教材の電子化促進を行うことを任務として発足した。

(A) 委員構成

委員の構成は以下の通り。

- ① 委員長 伊藤 博文 教授 (名古屋情報メディアセンター所長)
- ② 委員 蔣 湧 教授 (豊橋情報メディアセンター所長)
龍 昌治 教授 (豊橋教学委員会推薦)
齋藤 毅 准教授 (名古屋教学委員会推薦)
岩田 員典 准教授 (名古屋 ICT 委員会推薦)
三浦 文博 課長 (情報システム課)
- ③ 事務幹事 石原 有希子 係長 (情報システム課)
秦 俊一郎 係長 (名古屋情報メディアセンター)
濱口 庸介 係長 (豊橋情報メディアセンター)

なお, Moodle の運営にあたっては, 以下の協力を得た。

豊橋校舎担当: 運営堂 森野 誠之 (運用保守業務委託先)

名古屋校舎担当: 株式会社コネクティブ 内田 広幸 (運用保守業務委託先)

(B) LMS 運営特別委員会

2009 年度における委員会活動は以下の通り。

◆ 第 1 回: 2009 年 4 月 29 日 (水) 15:00~16:40

議題: (1) LMS 導入準備特別委員会報告について

(2) LMS 運営体制について

(3) 教職員向け講習会について

報告: (1) 教材電子化スタッフの運用について

(2) 「大学 e-ラーニング協議会」の参加について

(3) Moodle に関する懸案事項について

◆第2回：2009年7月1日(水) 15:30～17:00

- 議題：(1) LMS 運営特別委員会業務及び今後の活動計画について
(2) 教材電子化について
(3) 業務委託について

- 報告：(1) 教員向け Moodle 講習会開催について
(2) 4,5月の利用統計について

◆第3回：2009年10月1日(木) 13:30～15:00

- 議題：(1) LMS 講習会報告について
(2) 第2回 LMS 講習会の開催について
(3) 秋学期の展開方法について
(4) インフルエンザによる休講時への対応について

- 報告：(1) 6～8月の利用統計について

◆第4回：2010年2月4日(木) 10:00～12:50

- 議題：(1) 年度切替について
(2) 教材の電子化について
(3) モジュール開発について
(4) 2009年度事業報告について
(5) 2010年度事業計画について
(6) 2010年度の業務委託について

- 報告：(1) 秋学期 Moodle 講習会実施状況報告について
(2) 業務委託作業報告及び利用統計について
(3) 2009年度予算執行状況について
(4) 2010年度予算申請について

◆Moodle 情報交換会：2010年3月12日 14:00～15:00

司会：伊藤 LMS 運営特別委員会委員長

参加者から Moodle に関する意見、及び Moodle を使用した感想などが出された。出された意見は以下の通り。

- ゼミ、レポートで Moodle を使用している。学生への連絡にメールを使用しているが、学生は大学のメールではなく携帯のメールを使用しているため連絡が取れないことがある。携帯のメールも Moodle に登録させ、両方送信した方がよい。
- 2009年度から200名の大人数講義で、パワーポイントの資料をアップロードして配布している。学生には、資料は Moodle から印刷して授業に持ってくるように指示している。
初回授業で Moodle の説明を行っているが、Moodle について知らない学生がほとんどで、パソコンの操作についてもあまり習熟しておらず、説明を行った後の学生の対応がにぶい。コースログイン時のパスワードも初回に教えたが、講義を欠席していた学生が随時聞きにくる。
- Moodle のユーザーが年度ごとに入れ替わるが、Moodle にアップロードしたデータの内容が前年度と変わらない場合にも、毎年データを入れ替えるのが一番よいやり方なのかご意見を伺いたい。
- Moodle は今まで使用したことはないが、便利そうなので使ってみたい。特に大人数講義での資料配布の負担軽減が期待できる。
ゼミ、あるいは少人数講義で、教員と学生のやり取りはできるが、学生同士でのやり取りができないのが残念。
- 2009年度春学期に大教室(木曜1時限、120名)で使用している。
1回目に Moodle の操作方法について説明を行っている。2回目からは学生が各自で資料を用意してくれた。多量のプリントを用意する手間が省け、またあらかじめ資料を学生に確認させることが可能なので、便利である。
出欠管理モジュールは、自身が簡単に使えるようならば使いたい。
- 2009年度秋学期から Moodle を使用している。語学の授業で、20名程の受講生。授業のポイントや練習問題の回答を Moodle にアップロードしている。講義の質問は従来通りメールでやってきたが、今後は Moodle のフォーラムを活用して双方向にできるとよい。
Moodle を使用して発見した問題点としては、Moodle のコース参加者と受講者が一致するまでに時間がかかり大変だった。Moodle にアップロードした資料は学生各自に見てもらいたいのだが、なかなか見てくれない。他の先生方が担当されている学生の動きが知りたいが、いつまでに資料を準備しているか？
→ 資料をアップロードする時期は、授業が終わった後に次のものをアップしている。→ コース参加者と受講者を一致させる一つの方法として、受講生名簿から一括登録も可能である。
- 今までホームページでレジメ、資料を出していたが、ゼミの学生から Moodle を使って欲しいといわれた。本日、講習会でレクチャーを受け、Moodle の使い方が少しわかってきた。

- Moodle の使い方としては、春学期に体育の授業 240 名に資料配布として利用している。また、秋学期は情報系の授業で、出欠管理としても利用している。
2010 年には、1 年の体育のレポートを Moodle で提出させようと考えている。
- 情報系の授業では、小テストやフォーラムの書き込み、レポート回収を行っている。一般の授業では、携帯を使った出席管理やアンケートを試験的に実施している。
短大では卒業研究の抄録提出を Moodle でやらせたところ、230 名のうち 180 名が説明なしで提出できたことを確認している。
- 情報と社会(受講生 600 名程度)で使用している。大人数のため大変なプリント配布の代わりに資料を Moodle にアップロードしている。また、小レポートも実施し 580 名分を回収できた。
単位レポートは Word のテンプレートを用意して書かせ、回収している。レポート回収後は、レポート一覧を CSV に出力するなど、工夫して利用している。
- 資料配布として利用している。また同じ悩みで、資料を Moodle にアップロードしても学生が準備してこない。学生には、HP 検索、教員名簿、Moodle からログイン画面に行けると説明はしているが、成績の悪い学生ほど資料を印刷して用意してこない。成績のよい学生からは好評。
誰でも簡単にできると思っていたが、できないのかもしれない。これぐらいは学生の共通の能力としてできるようにして欲しい。
- レポート回収に使用している。評価は使っていないが 2010 年度からやってみよう。
なお、レポート提出時間順にダウンロードできるようになるとよい。理由は、課題を出すと友達のをコピーして、ほぼ同じ時間に送信してくるので、チェックがしやすくなる。また、メールを送る機能で、携帯にも送れるとありがたい。(宛先を 2 箇所指定できるとよい。)
- 法情報学で使用、フォーラムを活用している。学生に課題を与え、感想などを授業が始まる前にフォーラムに書き込ませ、それを授業でディスカッションの題材にしている。2010 年からは他の科目にも展開したい。

◆課題点

- 1) 携帯メールと大学メール
 - ・ 携帯のアドレスを設定しても、今の学生は携帯のアドレスを頻繁に変えてしまう。
 - ・ 2010 年度、豊橋では Active!Mail で携帯に転送させる設定をさせる予定である。大学のメールに送れば、携帯メールへ転送されるようになる。
- 2) Moodle の学生への周知徹底、全学生の利用スキル向上
- 3) リストア時のユーザー除外
 - ・ マニュアル バックアップ-リストア編 P.13 下にユーザー除外方法記載。
- 4) フォーラムでの学生同士のコミュニケーション
 - ・ フォーラムでは他人のコメントを見てコメントの評価をさせることができるが、友人の投稿に評価をつけさせるのは、非常にやりにくい。
 - ・ ワークショップ(モジュール)であれば、匿名で評価させることができる

- ・ 学生同士で双方向のコミュニケーションをやる方法はないのか。
 - ・ SNS をいれてコミュニケーションがとりやすい環境を作ることも必要ではないのか。
- 5) 出席管理
- ・ 携帯でアクセスして出欠を確認できないか？
→ 問題点はあるが、作成したモジュールで出席は取ることができた。
- ◆ 要望
- 地域政策学部の新カリキュラム(GIS)が 2012 年度からスタートする。そのためのコンテンツや教材を作成するため、テストサーバーを利用したい。また、何人かの教員は現在は別の大学に所属しているが、一緒に作りたいので学外者からも利用できるよう検討してほしい。
- 以上

2. Moodle 講習会

Moodle の利用促進のため、Moodle 利用講習会を以下の通り実施した。

①第 1 回 Moodle 講習会

教員向け Moodle 講習会開催のお知らせ!

① 日時	集 団 校 舎 7/2(木)・7/10(木)、2 階と 3 階 春 田 館 校 舎 7/18(木)、2 階と 3 階 専 用 校 舎 7/21(木)、2 階と 3 階 <small>※ 毎週月 1 回、1 回の 2 回実施です。ご都合のよい方にお申し込みください。</small>
② 場 所	集 団 校 舎 4 号館 413 教室 春 田 館 校 舎 第 1 講義室 専 用 校 舎 緑地 教室
③ 講習内容 <small>(実習形式で 90 分)</small>	1. Moodle の説明、授業における活かし方、事例の紹介 <small>・ 授業、単位取得の活用</small> <small>・ 事例の紹介</small> 2. 操作方法説明 <small>・ ニュースとコメントとお知らせ</small> <small>・ 教材提供 (ファイルアップロード)</small> <small>・ レポート課題 (レポートファイル、オンラインテスト)</small> <small>・ フォーラム</small> <small>・ 検索機能の活用</small> <small>・ クラス (グループチャット等含む) / 自動配信/クリックメール</small> 3. レポート体制、マニュアル設置場所の紹介 <small>・ 電話サポート、メディアセンターサポート、学生サポート (教員のみ)</small> <small>・ 電子化レポート</small> 4. 質疑応答
④ 講 師	豊 隆 校 舎・専 用 校 舎・遠 野 校 舎 春 田 館 校 舎 株式会社コネクティオ 内田 広 幸
⑤ その他	※ 参加費無料の必要はありません。直接教室までお越しください。 ※ 当日は教員向けマニュアルを配布いたします。

講習会に関するお問い合わせ先

豊隆校舎 地域政策メディアセンター 電話 (内線) 1332 春田館校舎 社会情報メディアセンター 電話 (内線) 1330 専用校舎 情報システム課 三室 (内線) 1100 E-mail: moodlestaff@maichi-uac.jp	お問い合わせ先 E-Mail
--	----------------

表1. 第1回 Moodle 講習会 参加状況

校舎	開催日	時限	場所	参加者	備考
豊橋	7月2日	2	413 教室	2	うち 名古屋校舎所属教員1名
	7月2日	3	413 教室	1	
	7月16日	2	413 教室	5	
	7月16日	3	413 教室	5	
名古屋	7月16日	2	第1 実習室	8	うち 豊橋校舎所属教員1名
	7月16日	3	第1 実習室	7	うち 事務職員1名
車道	7月23日	2	K802	4	うち 豊橋校舎所属教員1名
	7月23日	3	K802	4	うち 名古屋校舎所属教員2名

②第2回 Moodle 講習会

第2回 教員向け Moodle 講習会開催のお知らせ!

1 日 時 豊橋校舎：11月18日(水)9:00、11月19日(木)10:00
 名古屋校舎：11月4日(水)9:00、11月5日(木)10:00
 豊橋校舎：11月16日(水)9:00、11月19日(木)10:00
※名古屋校舎の11月5日(木)10:00は、11月19日(木)10:00の教室のみの変更となります。

2 場 所 豊橋校舎：11月18日(水) 421 教室
 11月19日(木) 413 教室
 名古屋校舎：第2 実習室 (両日共通)
 豊橋校舎：11月16日(水) K802
 11月19日(木) K804

3 講習内容 (概ね90分程度)
 1. Moodle の説明、授業における組み立て、事例の紹介
・設定、教材物の作成等
 ・質問受付
 2. 操作方法説明
・コースリストと検索設定
 ・教員向けログインアカウント作り
 ・レポート機能(レポートナビ、レポートインポート)
 ・リポート機能
 ・講師の紹介のみ
 ・テスト(クイズ、エッセイ、選択式) / 問題作成ツールの紹介
 3. アダプター機能、メディア管理機能の紹介
・モジュール、メディアコンテンツポート、質問レポート(講師のみ)
 ・質問レポート
 4. 質疑応答

4 講師 名古屋校舎：藤原 隆雄 助教 藤原 隆雄 助教
 豊橋校舎：藤原 隆雄 コordinator 藤原 隆雄 助教

5 その他
 ※講習会の出席は必ずしも、修習履修まで必要ではありません。
 ※当日は教員同士のコミュニケーションも期待いたします。

講習会に関するお問い合わせ先
 豊橋校舎 豊橋情報メディアセンター 2階 421号室 1533 1533 1533 1533 1533 1533 1533 1533 1533 1533
 名古屋校舎 名古屋情報メディアセンター 1階 230号室 2330 2330 2330 2330 2330 2330 2330 2330 2330 2330
 豊橋校舎 情報システム課 1階 130号室 E-mail: moodleita@ml.ac.jp

表2. 第2回 Moodle 講習会 参加状況

校舎	開催日	時限	場所	参加者	備考
豊橋	11月18日	3	421 教室	0	
	11月19日	3	413 教室	1	
名古屋	11月4日	3	第2 実習室	1	
	11月5日	3	第2 実習室	0	
車道	11月18日	3	K802	0	
	11月19日	3	K804	1	

③第3回 Moodle 講習会

第3回 教員向け Moodle 講習会&情報交換会開催のお知らせ!

1 日時	豊橋校舎 ：3月12日(金)、13:00～14:00 名古屋校舎：3月12日(金)、13:00～14:00 豊橋校舎：3月12日(金)、13:00～14:00 情報交換会 ：豊橋校舎：3月12日(金)、14:00～15:00 名古屋校舎：3月12日(金)、14:00～15:00 豊橋校舎：3月12日(金)、14:00～15:00
2 場所	豊橋校舎 ：研究館第3会議室 名古屋校舎：中央教習棟 第4研修室 豊橋校舎：本館 K8D4 教習
3 講習内容 (受講形式で60分)	1.09年コースから10年コースへのコースデータの移行方法説明 (コンピュータから行って説明します)。 2.その他 Moodle の活用方法の説明 ・2次情報 ・予約 3.質疑応答
4 情報交換会 (TV 会議で 60 分)	校舎を TV 会議で結んで Moodle を使った授業での悩み、課題などを意見交換していた対応、より良い授業について考えたいきます。
5 講師	豊橋校舎 ：斎藤 隆 名古屋校舎 ：佐藤 昌子 豊橋校舎は TV 中継となります。
6 その他	※事前登録の必要はありません。 定員を超えてお申し込みください。 ※当日は教員様は PC による参加をお願いします。

講習会に関するお問い合わせ先

豊橋校舎 豊橋情報メディアセンター 〒43 9520 電話 9730
 名古屋校舎 名古屋情報メディアセンター 〒46 2330 電話 2330
 事務局 情報システム課 〒46 2330 E-mail: moodiestaff@nitech.ac.jp

表 3. 第3回 Moodle 講習会 参加状況

校舎	開催日	時限	場所	参加者	備考
豊橋	3月12日	3	研究館第3会議室	11	
名古屋	3月12日	3	第4研修室	4	
車道	3月12日	3	K804	0	

3. Moodle 利用状況

(A) コース利用状況

運用開始初年度ということもあり、春学期は 49 コースでの開設となった。しかし、7月に開催した講習会、チラシの配布等の広報活動により、秋学期には春学期に比べ7割ほど増加し84コースの利用があった。

表 4. 2009 年度コース登録数及び利用教員数

カテゴリ	09 年春学期		09 年秋学期		合計	
	コース数	教員数	コース数	教員数	コース数	教員数
共通教育科目<豊橋>	11	7	26	11	37	18
共通教育科目<名古屋>	5	3	7	5	12	8
法	2	2	4	4	6	6
現中	2	2	1	1	3	3
経営	9	5	17	7	26	12
経済	9	5	16	8	25	13
文	1	1	2	2	3	3
国コミ	2	1	1	1	3	2
短大	3	2	4	2	7	4
法科	1	1	2	2	3	3
会計	1	1	0	0	1	1
大学院	1	1	1	1	2	2
資格課程	2	2	3	4	5	6
合計	49	33	84	48	133	81

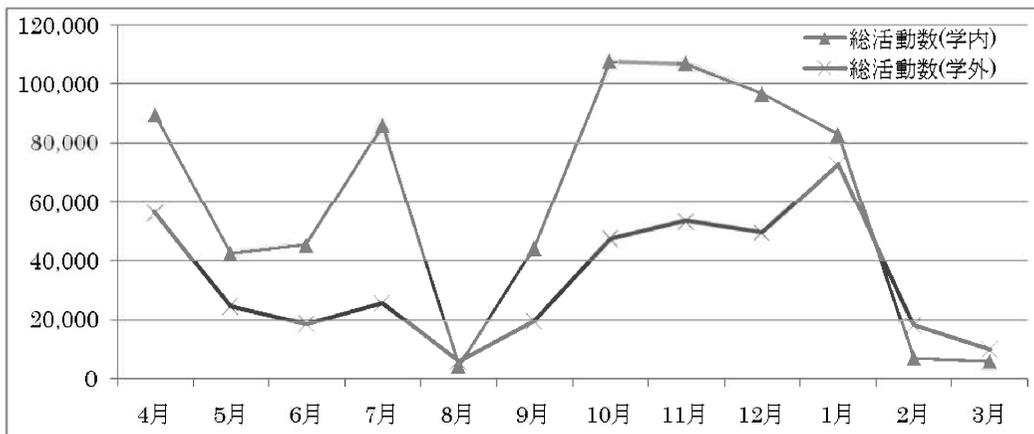
※利用教員数は延べ人数

(B) サイトアクセス

4 月は新生生のオリエンテーション等で Moodle の紹介を行ったためアクセス数があったが、コース数の少なさや在校生への認知度の低さから 5 月、6 月は伸び悩んだ。

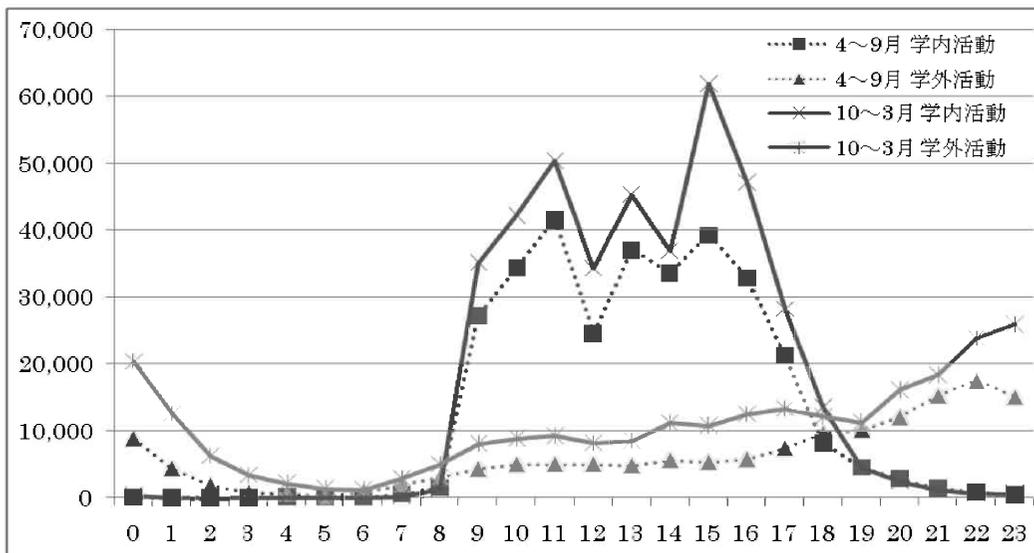
秋学期からは、利用教員及びコース数が増加し、10 月には学内活動数が 100,000 を超え、学外からの活動数も増加した。特に夜間（20 時から 1 時）のアクセスが増加しており、自宅等での予習や復習に供していると思われる。

図 1. 2009 年度 Moodle アクセス統計



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(学内) ログイン数	7,309	5,115	5,001	7,683	435	4,168	11,125	10,713	10,428	8,591	524	707
学外 総ログイン数	4,129	3,125	2,525	3,210	643	2,055	5,610	6,230	6,232	8,924	2,221	1,408
学内活動数	89,308	42,680	45,431	85,849	4,273	44,403	107,382	106,805	96,416	82,732	6,981	5,880
学外活動数	56,226	24,697	18,571	25,597	5,832	19,593	47,511	53,443	49,598	72,619	18,009	9,924

図 2. 時間別学期別活動数



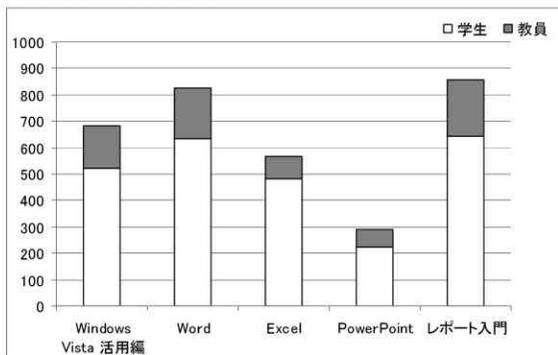
時間		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
4～9月	学内活動	126	79	17	0	8	0	57	437	1,395	27,199	34,413	41,683
	学外活動	8,744	4,335	1,906	732	568	168	782	1,930	2,999	4,240	4,947	5,001
10～3月	学内活動	350	63	43	93	38	43	17	176	1,323	35,139	42,190	50,380
	学外活動	20,302	12,583	6,184	3,292	2,072	1,327	1,109	2,861	4,921	8,019	8,858	9,189
時間		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
4～9月	学内活動	24,630	37,001	33,607	39,245	32,925	21,289	8,112	4,445	2,756	1,342	772	348
	学外活動	5,003	4,807	5,591	5,276	5,712	7,340	9,576	10,056	12,059	15,260	17,478	15,076
10～3月	学内活動	34,251	45,345	36,856	61,951	47,195	28,201	13,527	4,456	2,411	1,066	629	506
	学外活動	8,093	8,510	11,127	10,749	12,442	13,224	12,075	11,250	16,069	18,311	23,842	25,879

(C) 有料コンテンツ利用状況

日本データパシフィック社製の「コンピュータ入門コース（Windows Vista 活用編）」、「Word2007 入門コース」、「Excel2007 入門コース」、「PowerPoint2007 入門コース」、「レポート作成入門コース」の5つの e-Learning コンテンツを導入し、自学自習用コースを設置し提供した。利用状況は以下の通り。

図 3. 有料コンテンツ利用状況（利用者区別活動数）

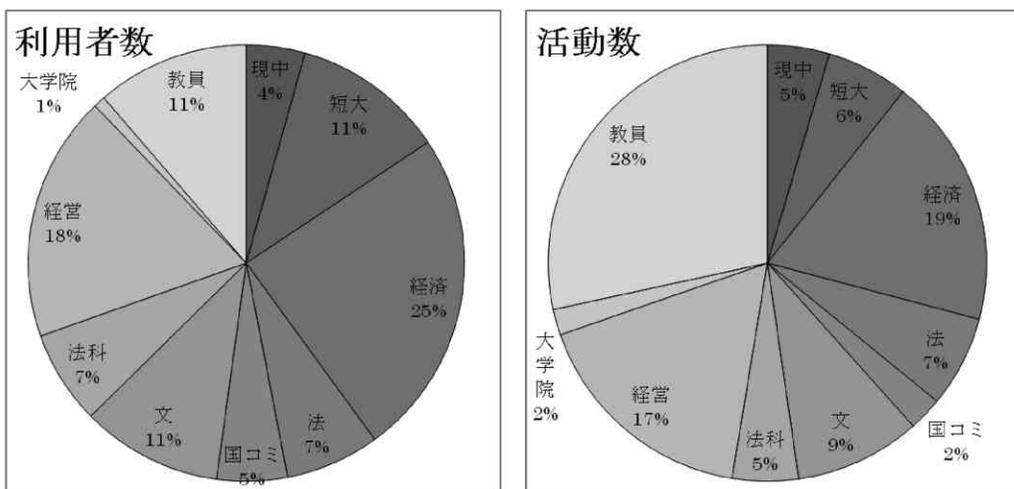
コース	学生	教員
Windows Vista 活用編	521	161
Word	633	191
Excel	484	81
PowerPoint	222	66
レポート入門	645	214



(D) UPO-NET 利用状況

放送大学 ICT 活用・遠隔教育センターがトライアルとして無償提供していた UPO-NET の教材「英語 TOEIC」、「リメディアル英語」、「ニュース時事能力検定」、「日本語検定」、「数学」、「SPI」を提供し、自学自習用として提供した。利用状況は以下の通り。

図 4. UPO-NET 利用統計 (学部別利用者数及び活動数)



学部	利用者数	活動数	学部	利用者数	活動数
現中	5	31	文	12	63
短大	13	41	法科	8	33
経済	28	126	経営	21	116
法	8	46	大学院	1	13
国コミ	6	17	教員	13	193

第5回 豊橋情報メディアセンター主催 情報活用コンテスト

2009年度は、情報活用コンテストも第5回目となり、技術の向上が見られました。

開催概要

- 募集期間 2009年12月10日から2010年2月12日
- 参加資格 愛知大学学部生・短期大学部生・及び大学院生
(名古屋校舎, 車道校舎の学生も応募可能)
- 応募部門 1) Web ページ
2) 写真加工
3) 動画編集 (携帯電話でも可)
- 応募総数 1) Web ページ 2名
2) 写真加工 6名
3) 動画編集 4名

受賞者

- 大賞 写真加工部門 大場智加 (文学部4年)
- 部門賞 Web ページ 藤井なつみ (文学部3年)
- 写真加工部門 大原雅史 (経営学部4年)
- 動画編集部門 岩瀬あゆみ (文学部2年)

以上

3. ICT委員会構成員

豊橋ICT委員（2010年10月1日現在）

役職名	所 属	氏 名
豊橋情報メディアセンター所長	経 済 学 部	杓掛 俊夫
委 員	文 学 部	中尾 充良
	経 済 学 部	湯川 治敏
	国際コミュニケーション学部	トーマス・M・グロース
	短期大学部	谷 彰

名古屋ICT委員（2010年10月1日現在）

役職名	所 属	氏 名
名古屋情報メディアセンター所長	法科大学院	伊藤 博文
委 員	法 学 部	山本 未来
	経 営 学 部	岩田 員典
	現代中国学部	土橋 喜
	法科大学院	春日 修
	会計大学院	栗濱 竜一郎

情報メディアセンター事務室

情報 システム課	課 長	三浦 文博
	事務情報システム係長	西脇 健
	教育研究情報システム係長	石原 有希子
	S E	小川 晃史
		大岡 奏子
豊橋情報メディアセンター事務室	係 長	濱口 庸介
名古屋情報メディアセンター事務室	係 長	秦 俊一郎

4. 愛知大学 情報メディアセンター沿革・歴代所長

年度	組織	所長(任期)		システム沿革
		豊橋	名古屋	
1978				IBM製ホストコンピュータ4331 導入
1979				
1980	電子計算機センター	津村 善郎 (1980.4.1~1982.4.30)		
1981	電子計算機センター委員会			
1982		福田 治郎 (1982.5.1~1983.3.31)		
1983		福田 治郎 (1983.4.1~1985.3.31)		
1984				
1985		高橋 正 (1985.4.1~1987.3.31)		
1986				
1987		高橋 正 (1987.4.1~1989.3.31)		
1988				第1期教育研究情報システム稼動 1988.4-1991.3
1989	情報処理センター	藤田 佳久 (1989.4.1~1989.5.31)	坂東 昌子 (1989.4.1~1990.9.30)	日立製ホストコンピュータ(HITAC M-640/20) 導入
1990	情報処理センター委員会 豊橋情報処理センター委員会 名古屋情報処理センター委員会	藤田 佳久	浅野 俊夫	
1991		(1990.10.1~1992.9.30)		第2期教育研究情報システム稼動 1991.4-1994.3
1992		藤田 佳久	有澤 健治	
1993		(1992.10.1-1994.9.30)		
1994		樋口 義治	長谷部 勝也	第3期教育研究情報システム稼動 1994.10-1997.3(全校舎学内LAN敷設)
1995		(1994.10.1-1996.9.30)		
1996		樋口 義治	長谷部 勝也	
1997		(1996.10.1-1998.9.30)		第4期教育研究情報システム稼動 1997.4-2000.9(延長6ヶ月)
1998		宮沢 哲男	有澤 健治	
1999		(1998.10.1-2000.3.31)		
2000		小津 秀晴	有澤 健治	
		(2000.4.1-2000.9.30)		
2001		小津 秀晴	田川 光照	4月 第5期教育研究情報システム稼動
2002		(2000.10.1-2002.9.30)		
2003		龍 昌治	坂東 昌子	
2004	情報メディアセンター	(2002.10.1-2004.9.30)		
2005	情報メディアセンター委員会 豊橋情報メディアセンター委員会 名古屋情報メディアセンター委員会	龍 昌治	坂東 昌子	4月 第6期教育研究情報システム稼動
2006	情報メディアセンター運営会議 豊橋情報メディアセンター運営会議 名古屋情報メディアセンター運営会議	(2004.10.1-2006.9.30)		
2007		龍 昌治	中尾 浩	
2008	ICT企画会議 豊橋ICT委員会 名古屋ICT委員会	(2006.10.1-2008.9.30)		
2009		蔣 湧	伊藤 博文	4月 第7期教育研究情報システム稼動
2010		(2008.10.1-2010.9.30)		
		沓掛 俊夫	伊藤 博文	
		(2010.10.1-2012.9.30)		

5. 自己紹介

豊橋情報メディアセンター 濱口 庸介

2010年度の人事異動に伴い、豊橋図書館から豊橋情報メディアセンターへ異動となりました。私にとって豊橋情報メディアセンターは、10数年振りに戻ってきた懐かしい場所でもあります。当時は、豊橋情報処理センターという名称でした。実習室のパソコンは、Windows95, 98を使用しており、今日のようにまだインターネット接続が定額常時接続ではない為、インターネット接続の為にダイヤルアップサービスを大学が提供していた、そんな時代でした。また、8月には一般市民の方を対象にしたパソコンを使った「公開講座」を豊橋情報処理センターで企画し、担当の先生、相談員、派遣の方々、職員と皆で協力して実施したこと、その「公開講座」PR用ポスターが渥美線の中吊りに貼られていた光景を、梅雨が明けた頃になると今でも懐かしく思い出します。

一方、その頃、情報を取り巻く世界では、2000年問題が騒がられ、『インターネットはからっぽの洞窟』（クリフォード ストール：著）という本が話題になり、インターネットの普及により到来するであろう、幾分かもてはやされ気味だったネット社会に対して懸念を表していました。

—このままでは、人と人との交流が薄まり、現実への関心がなくなって、社会の大切な部分が失われてしまう。インターネットは、理想の楽園という幻想で満たされた、からっぽの洞窟なのだ…。—という警鐘を、この本の中では鳴らしていました。

しかし、振り返ってみると、インターネットはこの本で書かれていた警鐘を促すばかりだけではなく、Blog, SNS, 動画共有サイト, Yahoo! や Google 等の検索サービスにより、人々の生活の利便性を飛躍的に向上させ、新たなビジネスモデルを創出した等の有益な成果を生み出したことは言うまでもありません。

また、最近では、iPad, Kindle に代表される小型情報端末の動向も今後注目すべき項目だと思います。特に iPad は、大学・高等学校の教育機関だけでなく、美術館といった公共施設、一般企業において導入されていることから特に注目する必要があるかと思います。

今日の定額常時接続環境の他フリースポット等の自由度の広がったネットワーク環境、先に挙げた小型情報端末に加えて iPhone 等のスマートフォンの登場等、このように情報を取り巻く環境が多様化する時代の中で、もう一度初心に戻り日々勉強していきたいと思えます。

これからも宜しくお願いいたします。

2010年4月に情報システム課に異動となりました小川晃史と申します。

2005年に大学職員となり、車道総務課、同窓会・父母会の事務局を経て、現在に至ります。

私は愛知大学を卒業後、IT企業で約7年半サラリーマンをしていました。就職した当時、文系出身でパソコンもろくに触ったことがなかった私は、半泣きで仕事を覚える毎日でした。その後も、一部の企業の短期的利益のために休日を返上して働くなど、健康と引き換えに自己満足を得ていた気もしますが、それも今となっては良い思い出です。

そんなIT業界とはここ数年縁が無く、日々進化する技術と激化する競争を「大変だな～」と傍観していただけでしたが、その渦中に再び巻き込まれるとは夢にも思っていませんでした。

ですが今は、20代で身につけた知識と経験を活かし、母校の発展と学生の皆さんの成長に貢献できることに誇りを感じています。転職して天職に就けたことを幸せに感じる毎日です。

では、なぜ大学の職員になりたかったのか。無学文盲に育った私自身が学問へ憧れていたかもしれません。大学はたくさんの素養を身につけられる場所です。そこで得た知識が何に役立つのかを考え、それを深く掘り下げるための調査・研究に十分な時間を割くことができます。そしてそれは、本当に楽しいことなのです。

高校までは、知識のエッセンスを抽出した試験問題ありきの勉強です。それでは生徒自身が「勉強の楽しさ」に気づくのは難しく、また誤解を恐れずに言えば、中高生の親や教師に「勉強の楽しさ」は教えられません。それを求めること自体が無理難題です。

話が飛躍しますが、受験と縁の無くなった社会人のいい大人が、なぜ自主的に勉強を始めるのか。試験問題ありきの勉強ではなく、「学問」と表現する方が的確かかもしれません。答えは、より多くの分野の素養を身につけ教養を高めることが、人生を豊かにするための最も有効な手段だからです。金銭的に贅沢をしても、一時的に楽しいだけでそのうち飽きます。もしくは、さらなる贅沢を求めて争いを続けるか、破たんするだけでしょう。

学問は楽しいだけでなく、質も量も分野も無限大です。知的好奇心さえ枯れなければ、一生飽きることのない最高の贅沢かもしれません。

学生の皆さんには、すぐに役に立たないような素養をたっぷりと身につけて欲しいと思います。そんな人生最高の贅沢の土台作りをサポートするために、大学職員として頑張っていく所存です。

編集後記

授業で Moodle を使い始めて 2 年が過ぎようとしています。愛大全体では Moodle の利用者は前年よりも増加しており、開設されたコースの数も増加しています。今回も前号と同様に多数の先生方に Moodle についての論文やコラムを投稿していただきました。これらの論文やコラムを拝見しますと、いろいろな活用方法が紹介されています。内容はいずれも大変興味深く、多くの先生方にとって Moodle を活用する上で参考になるものと思われます。投稿していただいた先生方には改めて感謝いたします。

個人的には教材の提示と小テストの実施に Moodle を活用していますが、小テストは数を多くすると、期待したとおりに表示されないものが出ることもあり、悪戦苦闘することも度々でした。ある程度予想されたことではありますが、教材や小テストを Moodle で使えるようにするまでにはかなり手間がかかるのが難点です。やはり、授業で支障なく Moodle を使うためには、サポート体制や意見交換できる場がないと難しいと実感してしまいます。

2010 年はアップルから iPad が発売され、マスコミでも大きく取り上げられて話題になりました。電車内や学内でも使っている人を見かけるようにもなりました。iPad 以外にもスマートフォン、電子ブックと話題の多い最近ですが、こういった携帯型の電子機器が、パソコンに代わる時代が目前に迫っていると思うと、気がかりでもあり楽しみでもあります。

今後はスマートフォンや iPad なども、授業で学生に使わせることが多くなり、さらに Moodle などの LMS と連携した活用がこれまで以上に進むものと思われます。すでにスマートフォンをゼミなどで活用している例も報告されており、また愛大で運用している Moodle でも携帯端末から小テストに回答できるようになっています。

今後も新しい傾向だけでなく、情報処理に関連した様々な分野から、多くの方の投稿をお願いいたします。

(K. D)

愛知大学情報メディアセンター紀要<COM> 原稿募集要項

情報メディアセンター紀要<COM>は、下記の要領で原稿を募集しています。詳細につきましては、情報メディアセンターまでお問い合わせください。

1. 著者の資格

- (1) 本学教職員および本学教職員との共著者
- (2) 本学非常勤教員
- (3) 本学学生（教員の推薦があるものに限る）
- (4) 編集委員会が認めたもの

2. 投稿原稿の内容

投稿原稿は未発表のもので、下記に関係する内容とする。

- (1) 情報教育に関する理論と実践
- (2) 情報科学や情報工学に関する理論とその応用
- (3) 情報システムに関する調査、分析、理論
- (4) コンピュータを活用した研究、教育、および業務等の実践報告
- (5) 本学のコンピュータ利用に関して必要と思われる情報メディアセンターの報告
- (6) その他（編集委員会が認めたもの）

3. 投稿原稿の種類

投稿された原稿は編集委員会によって、下記のように区分して掲載する。

- (1) 論文
- (2) 研究ノート
- (3) ソフトウェアレビュー
- (4) 情報教育フロンティア
- (5) 書評（新刊・古典）
- (6) 学会動向

※原稿の体裁と見本については別紙を参照のこと。

4. 原稿の提出要領

- (1) 原稿は、プリントアウトしたものと電子ファイルの双方を提出すること。
- (2) 完成された投稿原稿のみを受理する。
- (3) 提出する電子ファイル名は、投稿原稿のタイトルとすること。
- (4) 図版等がある場合は、その電子ファイルもあわせて提出すること。
図版等のファイル形式は jpeg とする。
- (5) 提出ファイルは、Microsoft Word またはテキスト形式とする。
- (6) 裏表紙（目次用）として、タイトル、著者名の英文を添えること。

(7) 著者は連絡先（ゲラ等の送付先）の住所，電話番号を申し込み先の担当者まで連絡すること。

5. 投稿原稿の体裁

投稿原稿は「愛知大学情報メディアセンター紀要<COM> 執筆要項」に従って作成すること。

なお，投稿原稿はCOM編集委員会にて別紙「体裁見本」のフォーマットに統一する。

6. 校正

(1) 校正は著者校正を2回とする。

(2) 校正段階での内容の変更は，総ページ数が増えない範囲で行なうこと

7. 著作権

(1) 提出された論文の著作権は，原則として愛知大学情報メディアセンターに属し，無断で複製あるいは転載することを禁じる。

(2) 論文作成に際して用いたコンピュータソフトや映像ソフト等の著作権に関する問題は，著者の責任において処理済みであること。他人の著作権の侵害，名誉毀損，その他の問題が生じないように十分に配慮すること。

(3) 万一，執筆内容が第三者の著作権を侵害するなどの指摘がなされ，第三者に損害を与えた場合，著者がその責を負う。

(4) 著作人格権は著者に属する。

(5) 本誌への掲載が確定した原稿は，愛知大学情報メディアセンターホームページにて公開するものとする。

(6) 投稿された原稿は，国立情報学研究所等へ登録される。

8. その他

(1) 別刷りは論文及び研究ノートに対し各30部作成し，著者代表者に無料で進呈する。

30部以上を希望する場合には有料とする。

(2) 著者には紀要を2部進呈する。ただし希望があれば10部を限度として進呈する。

以上

申し込み・問い合わせ：愛知大学情報メディアセンター
担当：情報システム課

E-mail：johosystem@ml.aichi-u.ac.jp

TEL：052-937-8120(内線3101)

FAX：052-937-8121(内線3109)

(別紙)

愛知大学情報メディアセンター紀要<COM> 執筆要項

1. 執筆言語

和文もしくは英文とする。

2. 原稿

(1) 論文……和文の場合は5000文字程度、英文の場合は3500 words程度。

ただし、図版等の数量に応じて調節すること。

(2) 研究ノート……和文の場合は3000文字程度、英文の場合は3500 words程度。

ただし、図版等の数量に応じて調節すること。

(3) ソフトウェアレビュー……和文の場合は3000文字程度、英文の場合は3500 words程度。ただし、図版等の数量に応じて調節すること。

(4) 情報教育フロンティア……和文の場合は3000文字程度、英文の場合は3500 words程度。ただし、図版等の数量に応じて調節すること。

(5) 書評(新刊・古典)……和文の場合は900文字程度、英文の場合は600 words程度。ただし、図版等を挿入することはできない。

(6) 学会動向……COMのフォーマットに従う。

3. 著者と所属

著者名と所属を記載し、著者名のあとにカッコ()に入れて所属を記載する。

4. セクションタイトルとセクション記号

本文中の章、節、項、目などの立て方は、原則として以下のとおりとする。

(例)

1. 章タイトル

1.1 節タイトル

1.1.1 項タイトル

(1) 目タイトル

5. 図・表・写真

図・表・写真は、本文中の適当な箇所に挿入すること。または、挿入箇所を明確にすること。

ただし、COM編集委員会にて挿入位置、サイズを変更する場合があるが、変更不可の場合は明記のこと。

(1) 表について

表の上部に「表○：表名」(○は表の一連番号)を記載すること。

(2) 図・写真について

図・写真の下部に「図○：図名」（○は図の一連番号）または「写真○：写真名」（○は写真の一連番号）を記載すること。

6. 要旨とキーワード

論文と研究ノートには要旨とキーワードをつける。要旨は400字以内（200words以内）で執筆し、本文と同じ言語でもよいし、異なった言語でもよい。キーワードは国立情報学研究所のcinii等への正確な登録のために、5～7語程度のキーワードをつける。

7. 謝辞

謝辞を記載する場合は、本文の最後に謝辞と小見出しを使い記載する。

8. 注・文献

注・文献の記載は、本文の後に1行空けてから「注・文献」という見出しを立て、その次の行から、注と文献とを一括して記載すること。本文中の該当箇所には、番号と右丸括弧を使い¹⁾のように上付きで記すこと。

参考文献は原則として、雑誌の場合には、著者、標題、雑誌名、巻、号、ページ、発行年を、単行本の場合には、著者、書名、ページ数、発行所、発行年を、この順に記す。記し方は次の例を参照にされたい（情報処理学会論文誌原稿執筆案内による）。

(例)

- 1) 山田太郎：偏微分方程式の数値解法，情報処理，Vol.1, No.1, pp.6-10 (1960) .
- 2) Feldman, J. and Gries, D.: Translator Writing System, Comm. ACM, Vol.11, No.2, pp.77-113 (1968) .
- 3) 大山一夫：電子計算機，p.300，情報出版，東京（1991） .
- 4) Wilkes, M. V: Time Sharing Computer Systems, p.200, McDonald, New York (1990) .

以上

愛知大学情報メディアセンター紀要 COM〔コム〕

Vol.21 No.1 第36号

2011年2月20日 印刷

2011年2月23日 発行

編集 愛知大学情報メディアセンター

「COM」編集委員会

発行 愛知大学情報メディアセンター

(豊橋) 豊橋市畑町1-1

〒441-8522 TEL (0532) 47-4124 (直通)

FAX (0532) 47-4125

(名古屋) みよし市黒笹町清水370

〒470-0296 TEL (0561) 36-1117 (直通)

FAX (0561) 36-2781

(車道) 名古屋市東区筒井2丁目10-31

〒461-8461 TEL (052) 937-8120 (情報システム課直通)

FAX (052) 937-8121

印刷 株式会社 クイックス

情報メディアセンター教育用パソコン 機種および設置台数

○豊橋校舎

設置場所		機種	台数
情報メディアセンター (4号館)	420教室	MintPC ridottos HITACHI FLORA 330W	70
	421教室	HP Compaq dc7700 SF	52
	423教室	HP Compaq dc7700 SF	58
	424教室	HP Compaq 6710b	50
	413教室	HP Compaq dc7700 SF	25
5号館	514教室	HP Compaq 6710b	24
	523教室	HP Compaq dc7700 SF	50
図書館棟1F	メディアゾーン	HP Compaq dc7700 SF	40
豊橋 計			369

○名古屋校舎

設置場所		機種	台数
情報メディアセンター	第1実習室	HP Compaq dc7700 SF	60
	第2実習室	HP Compaq 6710b	30
	第3実習室	HP Compaq 6710b	20
	オープンフロア	HP Compaq dc7700 SF	25
中央教室棟	マルチメディア教室	HP Compaq 6710b	60
東教室棟	E201教室	HP Compaq dc7700 SF	60
	E202教室	HP Compaq dc7700 SF	40
図書館棟2F	メディアゾーン	HP Compaq dc7700 SF	73
名古屋 計			368

○車道校舎

設置場所		機種	台数
メディアゾーン		HP Compaq dc5700SF	50
K802		HP Compaq 6720s	35
K804		HP Compaq 6720s	50
車道 計			135